



# 高崎中学校だより

生徒が生き生きと活躍する「生徒が主役の高中」



## 第5回学校運営協議会

第5回学校運営協議会を2月13日(火)に実施しました。

運営協議会委員の皆様には、これまで行事への御臨席、地域連携(面接指導、環境整備、地域貢献)等のご協力をいただきました。また、学校評価では、「今後も地域との関わりを継続し、連携を深めてほしい。」や「何かあれば、学校に連絡や相談を行い、連携を深めていけるとよい。」等の貴重なご意見をいただきました。この学校評価につきましては、来月、学校のホームページで公開いたしますので、是非ご覧ください。

学校評価で出されたご意見は次年度へ生かして参ります。学校運営協議会委員の皆様、1年間ありがとうございました。



## サーチライト設置(2月1日・木)

昨年末、保護者から「1年教室前や職員室前は、冬場の下校時、暗くて危険だ。」というご意見をいただきました。これを受けて、2月1日(木)に学校分収林積立基金を活用して、サーチライトを4器設置しました。これで日が暮れるのが早い冬場も安心して下校できます。貴重なご意見ありがとうございました。今後とも安心・安全な学校を目指していきますので、ご支援・ご協力お願いいたします。



## 教頭の霧島日記

「個人と分人」～芥川賞作家平野啓一郎氏の講演より～

2月17日(土)は、「都城教育の日」推進事業の一環として、芥川賞作家平野啓一郎氏による記念講演「自己の多様性を生きる」が行われました。

講演の中で特に印象に残った言葉が「個人と分人」です。要約すると以下の通りです。

人は、場所や人によって「違う自分」がいます。「運動をしている自分」「音楽をしている自分」「家族といる自分」「Aさんという友達と話している自分」、そんな自分を円グラフのように考えてみたらどうでしょう。100%全部好きな自分だけでなく部分的に好きな自分がいるはず。部分的に好きな自分を肯定することから始め、嫌いな自分を少しの間忘れることができれば精神的に病む人も減るのではないのでしょうか。

「個性」とは、その人の「ひとつ」を指すものではなく、「個」のなかにある多様な自分全てのことだと思えます。

つまり「分人」とは、自分を細分化することであり、人はその人自身の中にも多様性があるということなのです。

私自身を振り返ってみると、嫌いな所が多いのですが、いくつか好きなところもあります。それは全体の2割くらいです。でもその2割を認めることができた時、少し気持ちが楽になりました。

社会問題となっている「自殺」「不登校」に対してもこの考え方は有効ではないかと平野氏は述べていました。

最後に作品について少し紹介します。平野氏原作「ある男」は宮崎市や西都市を舞台とした小説で、映画化もされています。残念ながら「コロナ禍」のため、移動制限があり、宮崎県での撮影はできなかったそうです。

## 春～ツルコザクラの開花～

矢野先生が3年技術「栽培」の授業で、ツルコザクラを育てています。現在、右の写真のように少しずつ花が咲き始めました。また、学校周辺では、暖冬のためか菜の花が咲き、春を感じさせます。



